

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020201-05-084
基本事業：	01	経営資源の有効活用	担当部	企画政策部
基本事業の成果指標	業務改善・事業評価による改善・見直し件数（計画期間内累計） 成果指標が向上した事務事業の割合		担当課	企画政策課
			担当係	企画政策担当



事務事業が貢献すべき成果

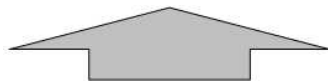
計画年度	平成15年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
職員			総合計画に掲げる施策、基本事業及びこれらを実現する手段である事務事業に成果指標と目標値を設定し、その推移を定期的に評価するとともに、必要に応じて事務事業の見直しを行う行政評価を実施する。  <評価の流れ> 事業評価者を対象とした研修、説明会の開催 事業を所管する課等による一次評価（行政評価システムへの入力） 企画政策課による二次評価（既存事業ヒアリング） 特に重点的に見直すべき事業を「重点見直し事業」として選定し、企画政策課によるヒアリングを実施 内部評価委員会（庁内組織）による二次評価 外部評価委員会（市民、有識者）による二次評価						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			・市民への説明責任が果たせている。 ・職員の意識改革を促しコスト意識、マネジメント意識が醸成されている。 ・総合計画に基づいた成果重視の事業実施ができています。 ・行政資源の効率的配分とその効率的活用ができています。						
・市民への説明責任が果たせている。 ・職員の意識改革を促しコスト意識、マネジメント意識が醸成されている。 ・総合計画に基づいた成果重視の事業実施ができています。 ・行政資源の効率的配分とその効率的活用ができています。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
内部評価委員会及び外部評価委員会で見直し・廃止の評価結果となった事務事業の割合		%	79.3	100	80	80			
5. コスト									
事業費		計	千円	2,901	2,880	3,160	3,256		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	1.5	1.5	1.5	2			
正職員人件費		千円	11,882	11,592	11,723				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	14,783	14,472	14,883	3,256			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		内部評価委員会では、年度ごとに評価対象施策を定め、その施策に属する事務事業の二次評価を行っているが、令和4年度は18事業の評価を行い、その内17事業で事務事業の改善につながる見直しの評価がなされ、1事業で廃止の評価が得られている。 外部評価委員会では、内部評価を受けた事業のうち、一年を経過し見直し等が図られたものの中から対象事業を選定し、評価を行っているが、令和4年度は10事業の評価を行い、10事業で事務事業の改善につながる評価が得られている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	令和3年度実績と比較すると、79.3%から100%と20.7ポイント上昇しており、事業の評価・見直し・改善の成果が出ていると考えられる。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性		維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
第六次総合計画の推進に向けて、総合計画の達成に寄与する新規事業等の検討や既存事業の見直しについて、所管課との継続した協議を行うこととしている。 なお、重点見直し事業については既存事業ヒアリングと取り組みが重なる部分が多いため、いったん廃止し、通常のヒアリング内で事業の進捗を確認していくこととする。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
事務事業の成果向上と経費節減を目的として、第三次筑紫野市行政改革大綱に基づき平成16年度及び平成17年度を試行期間とした上で、平成18年度から行政評価制度を導入した。			平成16年度～ 行政評価の試行（簡易事務事業評価の導入） 平成18年度～ 行政評価導入（通常評価の導入） 平成22年度～ 事務事業内部評価委員会による二次評価を開始 平成24年度～ 事務事業外部評価委員会による二次評価を開始 令和元年度～ 企画政策課による重点見直し事業評価を開始						

事務事業名 ふるさと応援寄附金納付促進事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：1651

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020201-07-085
基本事業：	03	自主財源の確保	担当部	企画政策部
基本事業の成果指標	収納率（市税等） 収納率（使用料及び負担金等） ふるさと応援寄附金収入額（計画期間内累計）		担当課	企画政策課
			担当係	企画政策担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成25年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市外住民		ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の納付を促進するため、寄附申出の電子化や寄附金のカード決済を行うためのポータルサイトを運営するとともに、市内事業者の特産品等を謝礼品として送付する。  <事務の流れ> 寄附の申出 寄附者は、申出書又はWEB上の申出フォームを利用し、寄附申出を行う。 寄附金の収納 寄附者は納付書又はカード決済等により、市に寄附金を納付する。 受領証明書・謝礼品の送付依頼 寄附者に受領証明書を送付するとともに、市内事業者に謝礼品の発送を依頼する。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
ふるさと応援寄附金の納付を促進することで、寄附金による自主財源の確保を図る。 また併せて、謝礼品を送付することによる市内店舗等の活性化を図る。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
寄附件数	件	32,805	45,591	60,000	80,000			
寄附金額	千円	284,706	390,972	562,000	692,000			
5. コスト								
事業費	計	千円	146,056	194,881	336,191	345,732		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	146,056	194,881	336,191	345,732			
正職員人工数	人工	1.5	1.2	1.2	1.8			
正職員人件費	千円	11,882	9,274	9,378				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	157,938	204,155	345,569	345,732			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）	「寄附件数」及び「寄附金額」については、前年度から12,786件、106,266千円増加した。インターネット上のポータルサイトである「ふるさとチョイス」「さとふる」「楽天」「ふるなび」「ふるさとプレミアム」に加え、令和4年度に新たに「ANA」を導入し寄附機会の増に取組んでいる。また、専門的な技術やノウハウを有する中間事業者に業務を一部委託し、効率的効果的なポータルサイトの運用や事業者説明会を実施することで、謝礼品の増加などに繋がり成果が向上しているものとする。

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり
成果向上余地	大きい		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）

改善方向性 維持 見直し 廃止 事業終了

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）

令和2年度以降新たなポータルサイトの導入や謝礼品の拡充などにより、寄附金額・寄附件数ともに増加中である。令和5年度についても、引き続き謝礼品の拡充に繋がる取り組みとして、新しいポータルサイトの導入やポータルサイトへの効果的な返礼品掲載手法の検討、事業者訪問等の実施について検討している。	今後も、引き続き寄附金額が拡大する方策について継続して検討する。
---	----------------------------------

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）

備考・特記事項 or 進行管理欄

ふるさと応援寄附金制度を平成20年度から実施しているが、納付件数が制度開始から平成24年度末までで15件（794,000円）であったため、平成25年度から納付促進のため1万円以上の寄附をしていただいた方に本市の特産品を謝礼品として送付することとした。	
---	--

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020302-05-096
基本事業：	03	自主財源の確保	担当部	市民生活部
基本事業の 成果指標	収納率（市税等） 収納率（使用料及び負担金等） ふるさと応援寄附金収入額（計画期間内累計）		担当課	収納課
			担当係	収納担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和47年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
納税義務者		市民税・法人市民税・固定資産税・都市計画税・軽自動車税・国民健康保険税および介護保険料、後期高齢者医療保険料の収納事務を行う  <業務内容> 収納業務 ・収納消込 ・口座振替収納 ・コンビニ・スマホ決済収納 ・キャッシュレス収納  滞納整理業務 ・督促・催告 ・滞納処分				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
納税方法の利便性の向上と収納率・収納額の向上を図る						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標	
収納額	万円	1,853,245	1,910,823	1,933,980	1,933,980			1,765,000	
収納率	%	93.08	94.13	94.13	94.13			92.6	
5. コスト									
事業費	計	千円	8,534	7,856	12,083	21,912			
	国	千円			0	0			
	県	千円			0	0			
	地方債	千円			0	0			
	その他	千円	1,774	1,700	1,915	1,800			
一般	千円	6,760	6,156	10,168	20,112				
正職員人工数	人工	12.3	11.3	11.3					
正職員人件費	千円	97,428	87,326	88,310					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	105,962	95,182	100,393	21,912				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）	コンビニ収納だけではなく、スマホ決済による収納が可能となったことで納税方法の利便性の向上が図られている。  滞納処分（財産差押）の強化により滞納繰越となっている収納未済分については減少傾向が続いている状況であり、収納率・収納額ともに伸びている。								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）										
改善方向性					維持	見直し	廃止	事業終了		
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
納税方法の利便性の向上 ・キャッシュレス決済による収納科目の拡大 令和6年度から市民税（普通徴収）と国民健康保険税の追加 キャッシュレス決済（クレジット決済・スマホ決済） 市民税（特別徴収）・法人市民税・固定資産税・都市計画税・ 軽自動車税については、令和5年度以前より開始										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
自主財源の確保										

事務事業名 コンビニエンスストア収納事務事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：1584

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	--
基本事業：	03	自主財源の確保	担当部	市民生活部
基本事業の 成果指標	収納率（市税等） 収納率（使用料及び負担金等） ふるさと応援寄附金収入額（計画期間内累計）		担当課	収納課
			担当係	収納担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成24年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
納税義務者			<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度から軽自動車税のコンビニエンスストア収納開始</li> <li>平成27年度から市県民税、固定資産税、国民健康保険税、介護保険料のコンビニエンスストア収納開始</li> </ul>						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
納付方法の拡大による納税者の利便性の向上									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
コンビニの利用率		%	15.7	17.7					39
5. コスト									
事業費		計	千円	7,079	7,432	8,074			
		国	千円			0			
		県	千円			0			
		地方債	千円			0			
		その他 一般	千円	7,079	7,432	8,074			
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3				
正職員人件費		千円	2,376	2,318	2,345				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	9,455	9,750	10,419				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		【状況】令和3年度年度は15.7%、令和4年度は17.7%と前年度比2.0ポイント増加しています。 【原因】増加した原因としては、スマホ決済アプリを使用した納税が拡大したことによります。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望） コンビニエンスストアでの納税は、納税者の利便の向上に繋がることから平成24年度より開始。									
備考・特記事項 or 進行管理欄									

事務事業名 ファイナンシャルプランナー活用事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：1692

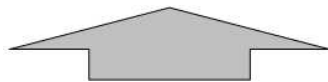
施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020302-07-098
基本事業：	03	自主財源の確保	担当部	市民生活部
基本事業の成果指標	収納率（市税等） 収納率（使用料及び負担金等） ふるさと応援寄附金収入額（計画期間内累計）		担当課	収納課
			担当係	収納担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成26年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
納税義務者			納税が困難となる原因として、収支バランスの崩壊、収入不足、多重債務、各種ローン、事業不振があります。それらの問題を解決することにより、納税に回せる資金を生み出して担税力を確保するとともに、納税意識の高揚を図るために、専門家であるファイナンシャルプランナーへの相談を実施しています。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【相談場所】 市役所内の相談室 【開設時間】 毎月1回 9時～17時（17時以降についても対応） 【相談内容】 収入支出のバランス、多重債務、ローン軽減、資金調達等 【申込方法】 開催前日までに予約（当日、空きがあれば相談可） 【料金】 無料 【周知方法】 催告書に案内のチラシを同封・納税相談時に案内 相談時には、職員が同席し、FPのアドバイス・指示等を確認し、進捗状況を把握するように努めている。						
納税困難となる原因が、金銭的な資金等があるため、ファイナンシャルプランナーの指導により、収支の改善等を図り担税力を確保してもらう。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度実績	04年度実績	05年度当初	06年度要求	07年度計画	08年度計画	目標
相談可能枠に対する稼働率（キャンセル含まない）		%	85.5	77.2					40
相談によって納付された額		千円	5,322	2,581					10,000
5. コスト									
事業費		計	千円	660	660	622	468		
		国	千円			0	0		
		県	千円			0	0		
		地方債	千円			0	0		
		その他一般	千円	660	660	622	468		
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3				
正職員人件費		千円	2,376	2,318	2,345				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	3,036	2,978	2,967	468			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		【状況】 相談件数については、令和3年度が53件、令和4年度が68件と、前年度と比較し15件の増加という結果でした。令和4年度内に収納に結びついた金額は、前年度から2,741千円減少し2,581千円でした。 【原因】 生活再建型の滞納整理を職員が推進したことから相談件数は増加しましたが、一方、収納に結びついた額が減少しているのは、コロナと物価の上昇による生活への影響が考えられます。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了		
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
納税意識はあるが納税できない原因として、収支バランスの崩壊、体重債務、各種ローン、事業不振などで納税資力が少ないことが多い。それらを解決できれば、納税の公平性、税収確保も図ることができるという点から事業を開始した。			備考・特記事項 or 進行管理欄						

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020108-03-041
基本事業：	04	公有財産管理	担当部	総務部
基本事業の成果指標	資産売却・貸付収入（計画期間内累計） 公有財産に関する事故件数 公共建築物の優先対応箇所の改修進捗率		担当課	管財課
			担当係	管財担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成07年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
集中管理している公用車、マイクロバス。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用申込、配車、車両点検の集中管理する。（集中管理の業務は委託契約する）</li> <li>・配車室に委託業者職員を1名配置する。</li> <li>・運転日誌の点検及びアルコールチェックを行う。</li> <li>・自動車任意保険の加入、更新、変更、廃止の手続きを行う。</li> <li>・車検の手続きを行う。</li> <li>・計画的な車両の更新を行う。</li> <li>・保険請求手続きを行う。</li> <li>・事故処理に対する保険業者への連絡及び各課への助言を行う。</li> <li>・全職員向け安全運転研修を年1回実施する。</li> <li>・交通事故防止コンクールに準じた対応を実施することで、全職員へ啓発を行う。</li> </ul>				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
適正な管理により稼働率を高める。公用車任意保険の手続き事務の一本化による事務量の削減を行う。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
車両に関するトラブル件数	件	12	15	10	0			10
マイクロバス稼働日	日	29	47	88	88			88

5. コスト								
事業費	計	千円	14,110	13,753	20,137	15,222		
	国	千円	0		0	0		
	県	千円	0		0	0		
	地方債	千円	0		0	0		
	その他	千円	319	345	182	186		
一般	千円	13,791	13,408	19,955	15,036			
正職員人工数	人工		0.4	0.4	0.4	0.4		
正職員人件費	千円		3,168	3,091	3,126			
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		17,278	16,844	23,263	15,222		

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）	新型コロナウイルス感染予防のため、管理職対象の安全運転研修を実施し、交通事故防止コンクールに準じた対応を実施することで職員へ啓発を行った。昨年度と比較すると公用車による事故は増加しているため、今後、全職員への安全運転に関する啓発及び事故状況の周知を行い、安全運転に関する意識向上するように努めていく。また、全職員を対象とした研修を実施し、職員の運転技術向上に努める。							

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし	車両に関するトラブル件数を少しでも減少させるため、公用車を使用する職員の事故防止の意識付けが必要である。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	あり					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

運転に不慣れな若年層職員も多く在籍することから、恒常的に運転技術や意識の向上に資する研修を実施する必要がある。	
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄

各課毎に車輛の管理運行をしていたため、実際に必要な車輛の課間の調整確保ができてなかった。また、車検・保険等の事務の一括管理の必要性から集中管理とした。環境配慮のエコカーの導入。	コロナウイルス感染症拡大防止の観点からマイクロバスの使用が減少した。
--	------------------------------------

事務事業名 公共建築物中長期予防保全事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：1687

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020108-10-045
基本事業：	04	公有財産管理	担当部	建設部
基本事業の成果指標	資産売却・貸付収入（計画期間内累計） 公有財産に関する事故件数 公共建築物の優先対応箇所の改修進捗率		担当課	建築課
			担当係	空家対策・建築計画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成27年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
公共建築物職員			<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物点検を施設管理者にさせ、システムに登録することにより劣化箇所の早期把握と対応が可能となる。</li> <li>・点検結果を反映した公共建築物長寿命化実施計画（5ヵ年計画）の策定が可能となる。</li> <li>・工事履歴を管理することにより、次に工事する際の工事内容等の参考となる。</li> <li>・施設の維持運営経費を把握し、蓄積することにより、将来施設の統廃合をする際の基礎資料となる。</li> <li>・公共建築物だけでなくインフラ資産の将来の更新費用の推計も可能で、公共施設等総合管理計画や公共建築物長寿命化計画の改定時にシステムを活用することができる。</li> </ul>							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			施設所管課職員の施設の維持・監理に対する意識を高めるとともに、公共建築物の長寿命化を図る。							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	03年度実績	04年度実績	05年度当初	06年度要求	07年度計画	08年度計画	目標	
施設所管課による劣化点検進捗率		%	100	100	100	100				
5. コスト										
事業費		計	千円	307	302	4,623	4,682			
		国	千円			0	0			
		県	千円			0	0			
		地方債	千円			0	0			
		その他一般	千円	307	302	4,623	4,682			
正職員人工数		人工	2.5	2.5	1.5					
正職員人件費		千円	19,803	19,320	11,723					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	20,110	19,622	16,346	4,682				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		令和4年度は、施設所管課へ定期点検及び劣化点検マニュアルを送り、施設所管課職員が施設の定期点検及び劣化点検を実施した上でその点検結果を公共施設マネジメントシステムへ登録した。それらの点検結果をもとに各課が建築工事調べ（令和5年度以降に実施を予定している工事）を建築課へ提出し、建築課が現地確認を実施した上で部位の改修優先順位を判断し、公共建築物長寿命化計画実施計画（5ヵ年計画）を策定した。また、工事履歴を管理するため、公共施設マネジメントシステムへ令和3年度に実施した主な工事を登録した。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	あり	<課題> 令和元年度から施設所管課による点検～公共建築物長寿命化実施計画（5ヵ年計画）の見直しのスキームを確立したが、スケジュールがタイトであったため、令和2年度からスケジュールを早め、令和4年度は、5ヵ年計画案を4月中に作成した。また、施設所管課職員の維持・管理に対する意識が低いため、講習等を通して継続して意識を高める必要がある。						
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）										
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
令和5年度から建築課でアスベスト調査業務委託料を一括予算計上している（補助金の対象となる市営住宅は管財課で計上）										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成26年度公共建築物保全マネジメントシステム導入 平成30年度公共施設マネジメントシステムを導入し、保全マネジメントシステムを統合 平成30年度公共建築物長寿命化計画を策定						施設所管課による劣化点検、建築課による劣化判定、保全優先度を踏まえ、公共建築物長寿命化実施計画（5ヵ年）を毎年度策定する。				

施策：	01	計画行政と効率経営の推進	財務コード	01020101-02-006
基本事業：	99	施策の総合推進	担当部	総務部
基本事業の 成果指標			担当課	総務課
			担当係	法務担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
職員、訴訟等の相手方			各種訴訟等に係る事案について、所管課及び市の機関と顧問弁護士等との調整事務を行っている。 所管課及び市の機関において各種事務事業を行っていくうえで、事業執行上のトラブルや法制上の対応について、所管課職員及び市の機関の職員が顧問弁護士等に相談し適切な指導を受け対応している。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
顧問弁護士等から適切な指導を受け、事業執行上のトラブルが防止され、係争等が円滑に処理できています。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
顧問弁護士への法律相談件数		件	31	47	30	30			
5. コスト									
事業費		計	千円	1,374	1,341	1,370	1,364		
		国	千円			0	0		
		県	千円			0	0		
		地方債	千円			0	0		
		その他	千円			0	0		
一般	千円	1,374	1,341	1,370	1,364				
正職員人工数		人工	0.8	0.8	0.8				
正職員人件費		千円	6,337	6,182	6,252				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	7,711	7,523	7,622	1,364			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている  あがっていない (停滞・低下)		法律相談の実績は、令和2年度が45件、令和3年度が31件、令和4年度が47件。件数が多ければそれだけ法的問題が生じていると捉えられがちだが、将来のトラブル防止、あるいは相手方と円満に解決するための手段として相談するケースも多く見られるため、市・相手方双方の利益の観点から見れば、訴訟になることなく解決している件数と捉えることもできる。費用対効果の面からも積極的に活用していきたい。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		事業を進める中で、複雑で多様化する法的問題から訴訟等に発展することを防止するため、緊急時でも十分に法律相談が受けられるように顧問弁護士の2名体制をとっており、法的判断の決定に大きく寄与している。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし						
成果向上余地	なし								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
市民ニーズの高度化・多様化に伴い法的問題も複雑化している。事業執行上のトラブル等に迅速・的確に対応することが求められる。					備考・特記事項 or 進行管理欄				